

第3回かぜくも教室を 開催しました！



9月29日(木)に「言葉の育ちとかかわり」をテーマに第3回かぜくも教室が行われました。本校の地域支援センター古川教諭を講師として、子どものことばが遅いときの生活の工夫と遊びについてのお話しをさせていただきました。

「ことばも遅いし、落ち着きがなくてあちこち走り回る。」「呼びかけても全然振り向きもしないし、反応もしない。」「こちらの言っていることが分かっているのかどうか、わからない」などの実際の事例を例に挙げながら説明を行ったり、参加いただいた保護者さんへ今後どうしていったらよいかアドバイスさせていただきました。

ことばを育てるためには、まず「からだづくり」「こころ育て」が土台となり、その土台をしっかりつくることで、「ことば」が育つこと。そばにいる大人がじっくりと関わって共感してあげることで、大人との関係が築かれ対人関係の基礎ができあがり、ことばの力になるということをお話しさせていただきました。

参加した保護者さんからの質問なども上がり、有意義な時間を過ごすことができました。

参加された保護者様の声

最近療育の勉強会で100を求めず60できたらOK!それは良い事と学んできて、今日の講義も同じなんだなと思いました。意味は少し違っても子どもが楽しんでいるならOK.なんとなくでも伝わって親子で楽しさを共感できればいいんだと学びました。



子どもの言葉が私の声掛けや対応の仕方の影響をととても受けていて、悩んでいたことは対応の間違いだったことに気付いた。古川先生の言葉一つ一つに気付かされ、今後の関わりについて見直していきたい。いろいろな誉め方を探していこうと思います。

言葉を育てていくことに、いろいろな段階があることを学びました。

会話できないことがずっと心配だったが、その前にやるべきことがたくさんあるんだなと思った。子どもとのやり取り遊びやふれあい遊びを増やしていこうと思いました。すぐくためになる話がたくさん聞けました。ありがとうございます。

言葉が出るのは体を動かしたりスキンシップしたり、いろいろなことが積み重なって言葉につながっていくことがよくわかりました。子どもが話しているのをきちんと聞いてあげて反応してあげて一緒に遊んで楽しみたいと思います。

今回初めて参加してみて、言葉につながるのはまずは関わり方がとても大切なことがわかりました。言葉がまったく出ないので実物の物や言葉カードなどばかりだったので遊びながら今日の資料を参考にしてみたいと思います。